

CLUSTERPRO

MC LogMonitor 2.11 for Windows

ユーザーズガイド

(SNMPトラップ送信機能)

© 2026(Apr) NEC Corporation

- 製品の概要
- 製品の機能
- 製品の導入
- 操作・運用手順
- メッセージ
- 注意・制限事項
- リファレンス

改版履歴

版数	改版	内容
1	2019/04	新規作成
2	2019/04	使用する MIB 定義ファイルを修正
3	2020/04	バージョンアップに伴い改版
4	2021/04	バージョンアップに伴い改版 インストール先のデフォルトフォルダーを変更
5	2021/04	SNMP トラップメッセージに StorageSaver for BootDisk のメッセージを追加
6	2022/04	バージョンアップに伴い改版 新サポートOS (WindowsServer2022) の記載を追加
7	2023/04	バージョンアップに伴い改版
8	2024/04	バージョンアップに伴い改版
9	2025/04	バージョンアップに伴い改版 新サポートOS (WindowsServer2025) の記載を追加
10	2026/04	バージョンアップに伴い改版

はしがき

本書は、CLUSTERPRO MC LogMonitor 2.11 for Windows の SNMP トラップ送信機能について記載したものです。

(1) 本書は以下のオペレーティングシステムに対応します。

サポート対象ハードウェアは、x86_64 搭載マシンです。

- Microsoft Windows Server 2016 Standard
- Microsoft Windows Server 2016 Datacenter
- Microsoft Windows Server 2019 Standard
- Microsoft Windows Server 2019 Datacenter
- Microsoft Windows Server 2022 Standard
- Microsoft Windows Server 2022 Datacenter
- Microsoft Windows Server 2025 Standard
- Microsoft Windows Server 2025 Datacenter

(2) 本製品は以下のバージョンの CLUSTERPRO MC 製品に対応します。

- CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.11 for Windows
- CLUSTERPRO MC RootDiskMonitor 2.11 for Windows
- CLUSTERPRO MC StorageSaver 2.11 for Windows
- CLUSTERPRO MC StorageSaver for BootDisk 2.11 for Windows

(3) 本リリースの強化点について

MC LogMonitor 2.11 (2026 年 4 月出荷版) では、下記の機能を強化しています。

- 各 CLUSTERPRO MC 製品のバージョン 2.11 に対応しました。

(4) これまでの強化点について

MC LogMonitor 2.10 (2025 年 4 月出荷版) では、下記の機能を強化しています。

- 各 CLUSTERPRO MC 製品のバージョン 2.10 に対応しました。

MC LogMonitor 2.9 (2024 年 4 月出荷版) では、下記の機能を強化しています。

- 各 CLUSTERPRO MC 製品のバージョン 2.9 に対応しました。

MC LogMonitor 2.8 (2023 年 4 月出荷版) では、下記の機能を強化しています。

- 各 CLUSTERPRO MC 製品のバージョン 2.8 に対応しました。

MC LogMonitor 2.7 (2022 年 4 月出荷版) では、下記の機能を強化しています。

- 各 CLUSTERPRO MC 製品のバージョン 2.7 に対応しました。

MC LogMonitor 2.6 (2021 年 4 月出荷版) では、下記の機能を強化しています。

- ・ 各 CLUSTERPRO MC 製品のバージョン 2.6 に対応しました。

(5) 商標および登録商標

- ✓ CLUSTERPRO は、日本電気株式会社の登録商標です。
- ✓ その他、本書に登場する会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。
なお、本書では®、TM マークを明記しておりません。

目次

1	製品の概要	1
1.1	製品の概要について	1
1.2	製品の構成について	3
1.2.1	モジュール構成	3
1.2.2	フォルダー、ファイル構成	4
2	製品の機能	6
2.1	イベントログ監視機能	6
2.2	SNMPトラップ送信機能	7
2.3	運用管理機能	7
3	製品の導入	8
3.1	製品の導入について	8
3.1.1	インストール	8
3.1.2	セットアップ	13
3.1.3	アンインストール	14
3.1.4	ダウングレードインストール	15
3.2	設定ファイルについて	16
3.2.1	設定ファイルの構成	16
3.2.2	設定ファイルの確認、適用手順	19
3.3	監視メッセージリストについて	20
3.3.1	監視メッセージリストの構成	20
3.3.2	監視メッセージリストの確認、適用手順	22
4	操作・運用手順	23
4.1	ログ監視デーモンの操作手順	23
4.1.1	起動手順	23
4.1.2	終了手順	23
4.2	運用管理コマンドの操作手順	24
4.2.1	ログ監視デーモンの設定状況表示	24
4.3	出力ファイルについて	25
4.3.1	トレースログ	25
5	メッセージ	26
5.1	SNMPトラップメッセージ	26
5.2	イベントログメッセージ	31
5.2.1	ログ監視デーモンが出力するイベントログメッセージ	31
5.2.2	運用管理コマンドが出力するイベントログメッセージ	34
5.2.3	SNMPトラップコマンドが出力するイベントログメッセージ	34
5.3	コンソールメッセージ	35
5.3.1	ログ監視デーモンが出力するコンソールメッセージ	35
5.3.2	運用管理コマンドが出力するコンソールメッセージ	35
5.3.3	SNMPトラップコマンドが出力するコンソールメッセージ	36

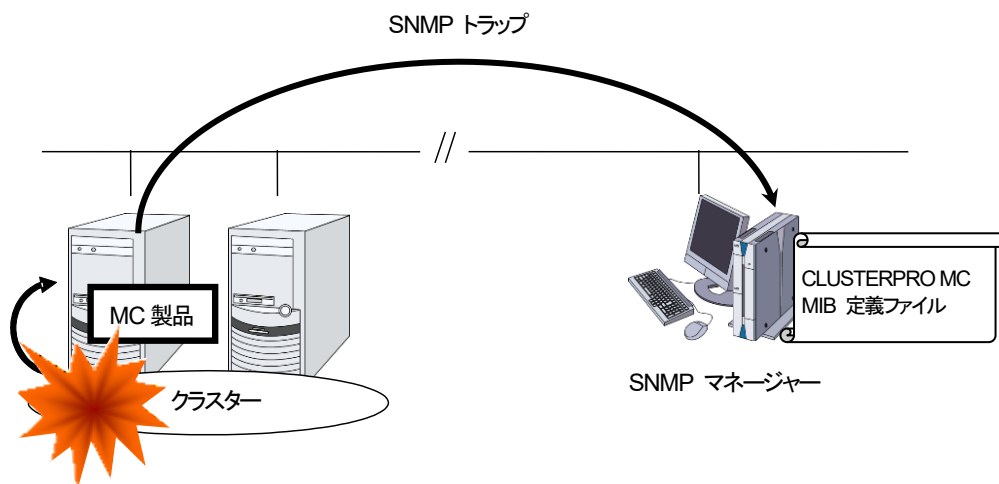
6	注意・制限事項.....	37
6.1	注意事項.....	37
6.2	制限事項.....	37
7	リファレンス.....	38
7.1	mclgmonadmin.....	38

1 製品の概要

1.1 製品の概要について

(1) 提供する機能

本製品は、CLUSTERPRO MC 製品(以降 MC 製品と記載します)の障害検出時に SNMP トラップ送信を行う機能を提供します。



注意 本製品の SNMP トラップ送信機能を利用する場合、CLUSTERPRO MC MIB 定義ファイル (NEC-CLUSTER-MC-EVENT-MIB.mib) が必要になります。送信するトラップ情報はこの MIB 定義ファイルにまとめられています。

SNMP マネージャーで SNMP トラップを受信する場合、SNMP マネージャーに CLUSTERPRO MC MIB 定義ファイルを組み込む必要があります。SNMP マネージャーへ MIB 定義ファイルを組み込む方法については、各 SNMP マネージャーのマニュアルを参照してください。

CLUSTERPRO MC MIB 定義ファイル、適用手順書は MC 製品の媒体に格納されています。

- ・MIB 定義ファイル
/Util/mclogmon/common/mib/NEC-CLUSTER-MC-EVENT-MIB.mib
- ・MIB 定義ファイル適用手順書
/Util/mclogmon/common/mib/readme_NEC-CLUSTER-MC-EVENT-MIB.txt

各 MIB オブジェクトの詳細については、MIB 定義ファイル、適用手順書を参照してください。

本製品は SNMP マネージャーから SNMP を使用して情報を取得する機能は提供していません。

(2) 提供する機能の概要

MC 製品の障害検出メッセージを記述したファイルを監視メッセージリストに指定します。

イベントログに出力されるメッセージを定期的に監視し、この監視メッセージリストに指定されたメッセージが出力された場合に、SNMPトラップを指定したサーバーに送信します。

本製品を使用することで、SNMP マネージャーを使用したさまざまな統合運用監視製品に MC 製品の障害を通知することが可能になります。

- ・ イベントログ監視機能

イベントログに出力されるメッセージの定期監視を行い、監視メッセージリストに指定されたメッセージに一致するかチェックを行います。

- ・ SNMPトラップ送信機能

指定されたサーバーに SNMPトラップを送信する機能を提供します。

SNMPトラップメッセージの詳細については、「5.1 SNMPトラップメッセージ」を参照してください。

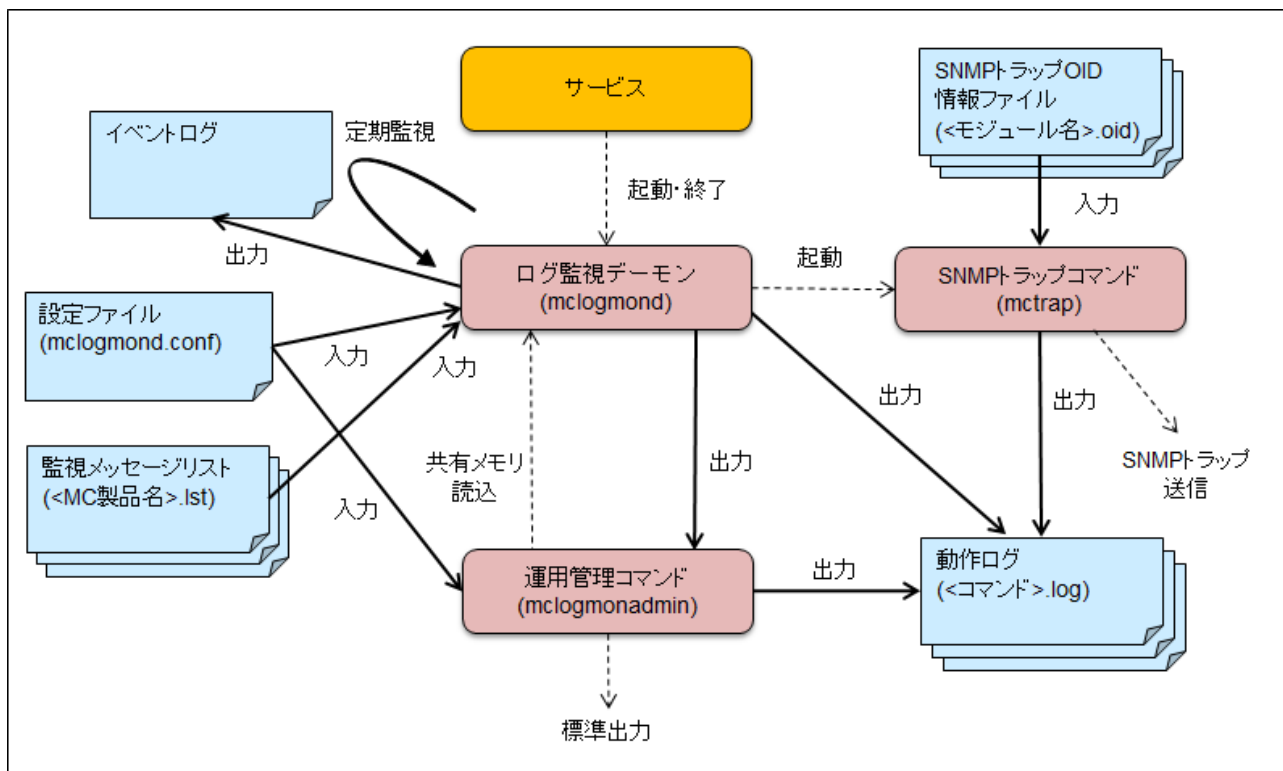
- ・ 運用管理機能

本製品の設定状況と監視状況を表示する運用管理機能をコマンドインタフェースで提供します。

1.2 製品の構成について

1.2.1 モジュール構成

本製品のモジュール構成は以下のとおりです。



1.2.2 フォルダ、ファイル構成

本製品で使用するフォルダおよびファイル構成は以下のとおりです。

フォルダ	ファイル	概要
【インストールフォルダ】 ¥HA¥MCLOG¥bin	mclogmond.exe	ログ監視デーモン
	mclogmonadmin.exe	運用管理コマンド
	mctrp.exe	SNMPトラップコマンド
【インストールフォルダ】 ¥HA¥MCLOG¥conf	mclogmond.conf	設定ファイル 本製品の動作に必要な設定を記載したファイルです。 サンプルファイルが【インストールフォルダ】¥HA¥MCLOG¥conf¥sample 配下に提供されています。
【インストールフォルダ】 ¥HA¥MCLOG¥masgconf	processsaver.lst	監視メッセージリストファイル MC ProcessSaver の監視メッセージ情報を記載したファイルです。 製品媒体から本フォルダにコピーして使用します。
	rootdiskmonitor.lst	監視メッセージリストファイル MC RootDiskMonitor または MC StorageSaver for BootDisk の監視メッセージ情報を記載したファイルです。 製品媒体から本フォルダにコピーして使用します。
	storagesaver.lst	監視メッセージリストファイル MC StorageSaver の監視メッセージ情報を記載したファイルです。 製品媒体から本フォルダにコピーして使用します。
【インストールフォルダ】 ¥HA¥MCLOG¥data	mcps.oid	SNMPトラップ OID 情報ファイル MC ProcessSaver の SNMPトラップ送信時の OID 情報を記載したファイルです。
	mcrdm.oid	SNMPトラップ OID 情報ファイル MC RootDiskMonitor の SNMPトラップ送信時の OID 情報を記載したファイルです。
	mcss.oid	SNMPトラップ OID 情報ファイル MC StorageSaver の SNMPトラップ送信時の OID 情報を記載したファイルです。
【インストールフォルダ】 ¥HA¥MCLOG¥log	mclogmond.log mclogmond.log.xxx *1	動作ログ ログ監視デーモンのトレースログです。
	mclogmonadmin.log mclogmonadmin.log.xxx *1	動作ログ 運用管理コマンドのトレースログです。
	mctrp.log mctrp.log.xxx *2	動作ログ SNMPトラップコマンドのトレースログです。

*1 … xxx は 001~100

*2 … xxx は 001~003

本製品の利用時に使用する、各フォルダーの使用容量は以下のとおりです。

フォルダー	使用容量	概要
【インストールフォルダー】 ¥HA¥MCLOG¥log	約 60MB	デフォルト値で利用した場合の容量です。 各ログファイルのサイズの上限は 5MB で、 3 世代までバックアップファイルを作成します。

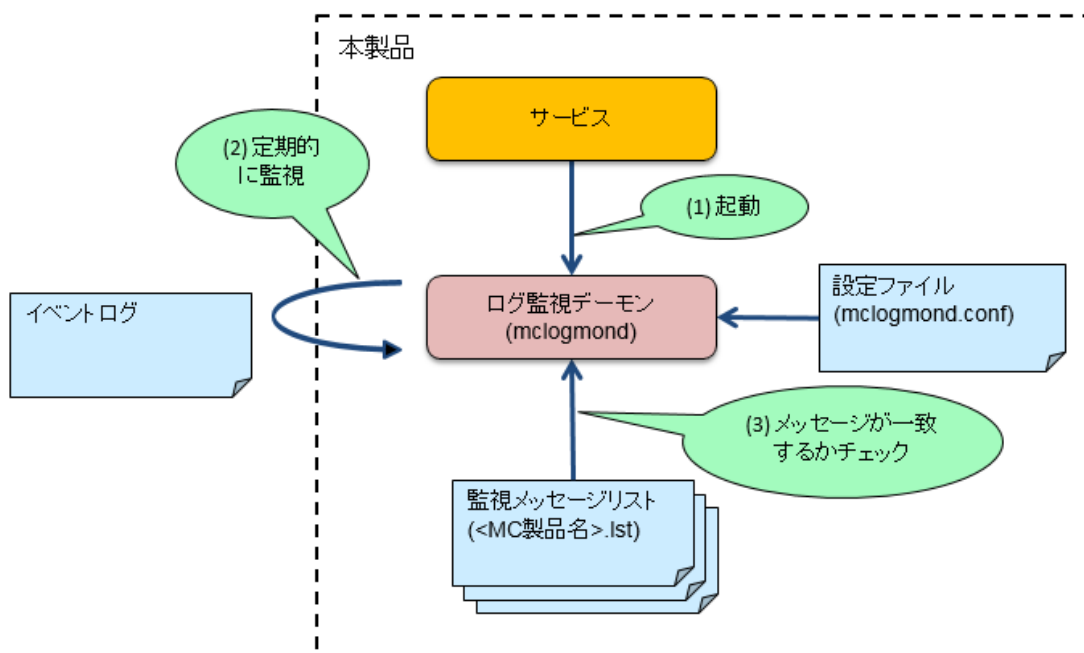
2 製品の機能

2.1 イベントログ監視機能

イベントログに出力されたメッセージを定期的に監視し、あらかじめ設定している監視メッセージと一致するかチェックを実施します。

処理の流れ

- (1) イベントログ監視を実施するログ監視デーモン(mclogmond)を起動します。
- (2) ログ監視デーモンは、イベントログに出力されたメッセージを定期的に監視します。
- (3) イベントログに出力されたメッセージが監視メッセージリストに指定されたメッセージに一致するかどうか判定します。一致した場合には SNMP トラップ送信機能を実行します。
- (4) イベントログに出力されたメッセージの定期監視を継続します。

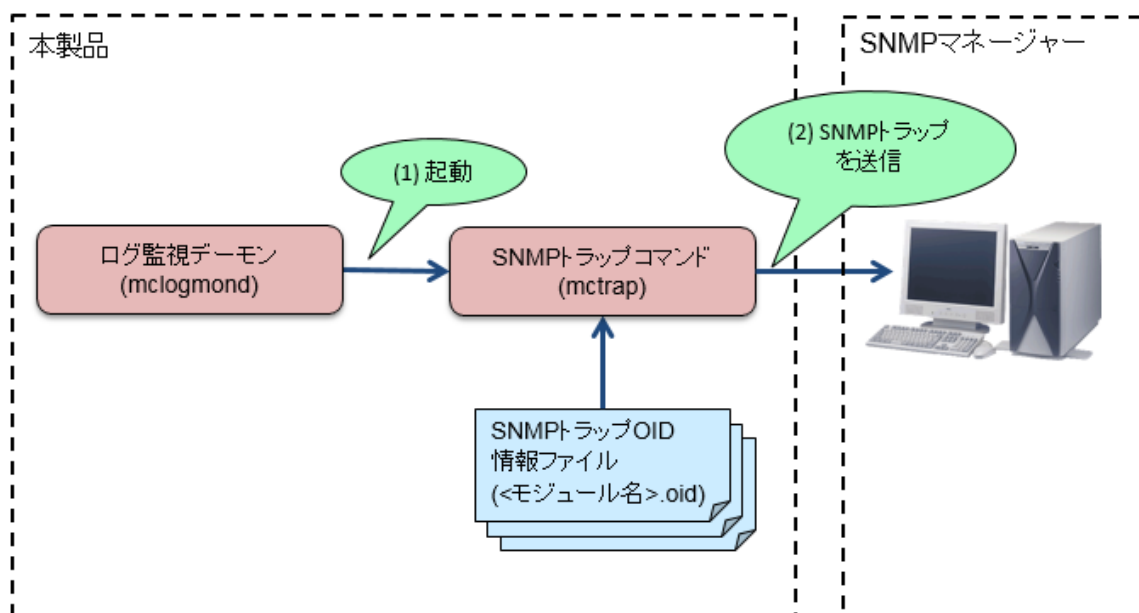


2.2 SNMPトラップ送信機能

監視メッセージリストに指定されたメッセージに一致した場合、あらかじめ登録されている送信先サーバーにSNMPトラップを送信します。

処理の流れ

- (1) ログ監視デーモンは、SNMPトラップコマンド(mctrap)を起動します。
- (2) SNMPトラップコマンドは設定ファイルに指定された送信先サーバーにSNMPトラップを送信します。



2.3 運用管理機能

本製品の設定状況と監視状況をコンソールに表示する運用管理コマンド(mclogmonadmin)を提供します。

運用管理コマンドの詳細については、「4.2 運用管理コマンドの操作手順」を参照してください。

3 製品の導入

3.1 製品の導入について

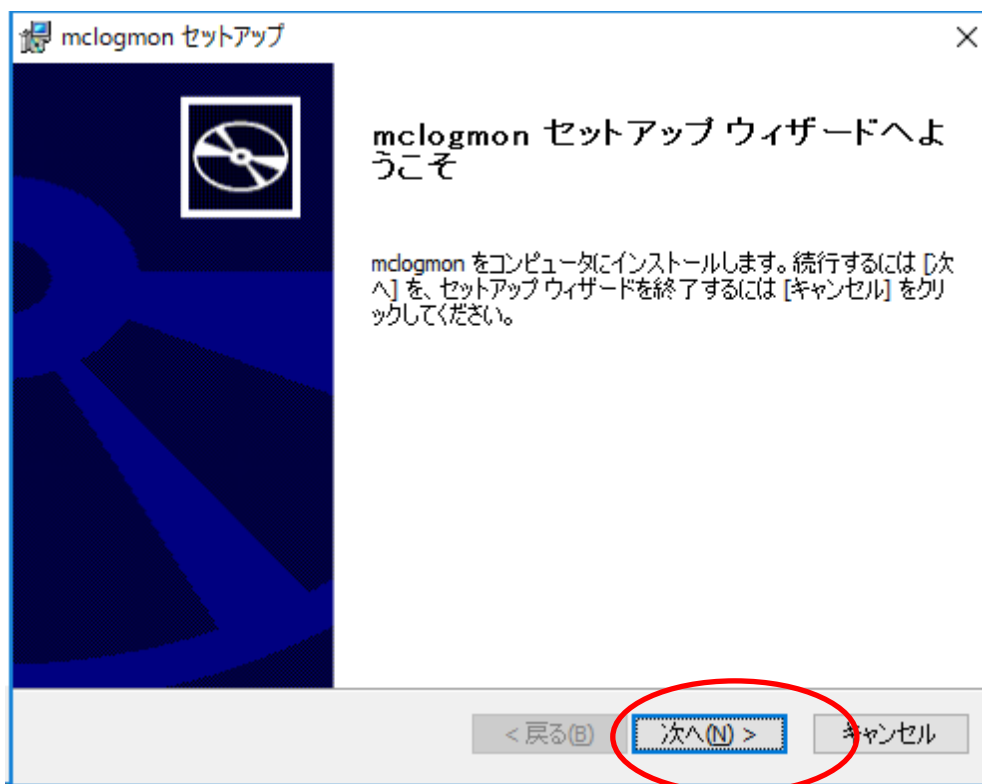
3.1.1 インストール

本製品を導入する場合、インストールを以下の手順で実施します。

- (1) 本製品が含まれるインストール媒体を CD/DVD ドライブに挿入してください。
- (2) 【Setup.exe】を実行してください。

【CD-ROM(DVD-ROM ドライブ)¥Util¥mclgmon¥Windows¥setup¥Setup.exe

実行すると下記画面が表示されますので、次へ(N) を押してください。



注意 Microsoft Windows Server 2025 以降において Setup.exe を実行した際、セットアップ画面起動と同時に Windows Terminal が起動する場合がありますが、インストールに影響はありません。起動した Windows Terminal は無視してインストール手順に従ってセットアップ画面を操作してください。
なお、インストール終了後に Windows Terminal は自動で終了します。

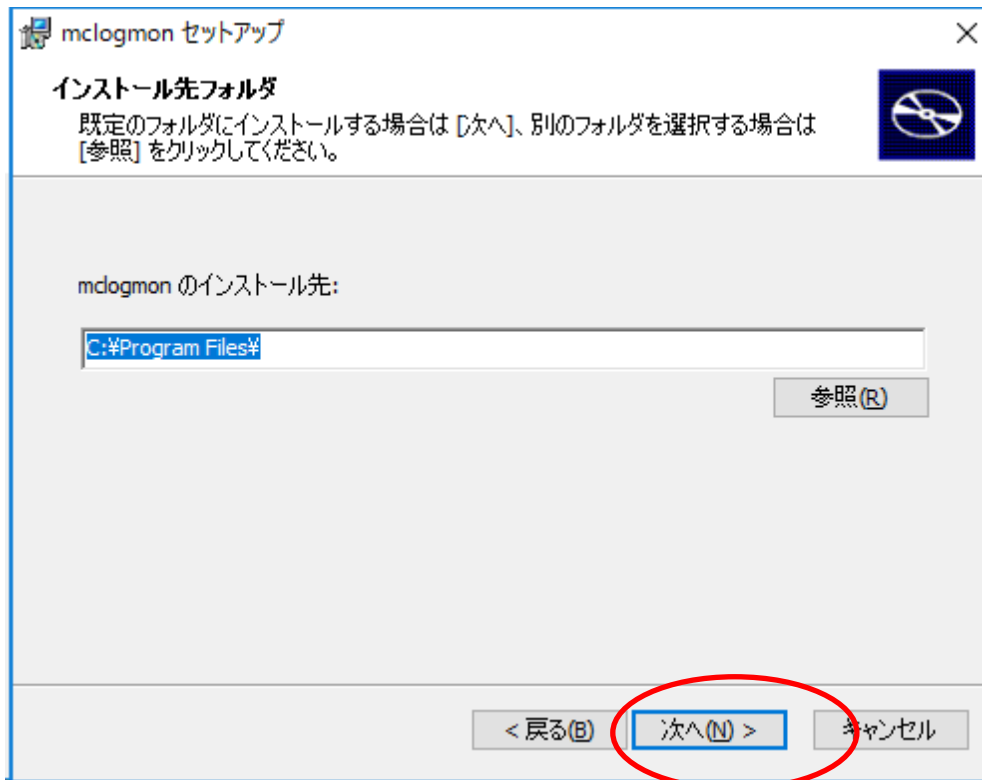
(3) インストール先のフォルダーを指定します。

指定したフォルダー配下に"HA\MCLOG"フォルダーが作成され、各ファイルがインストールされます。

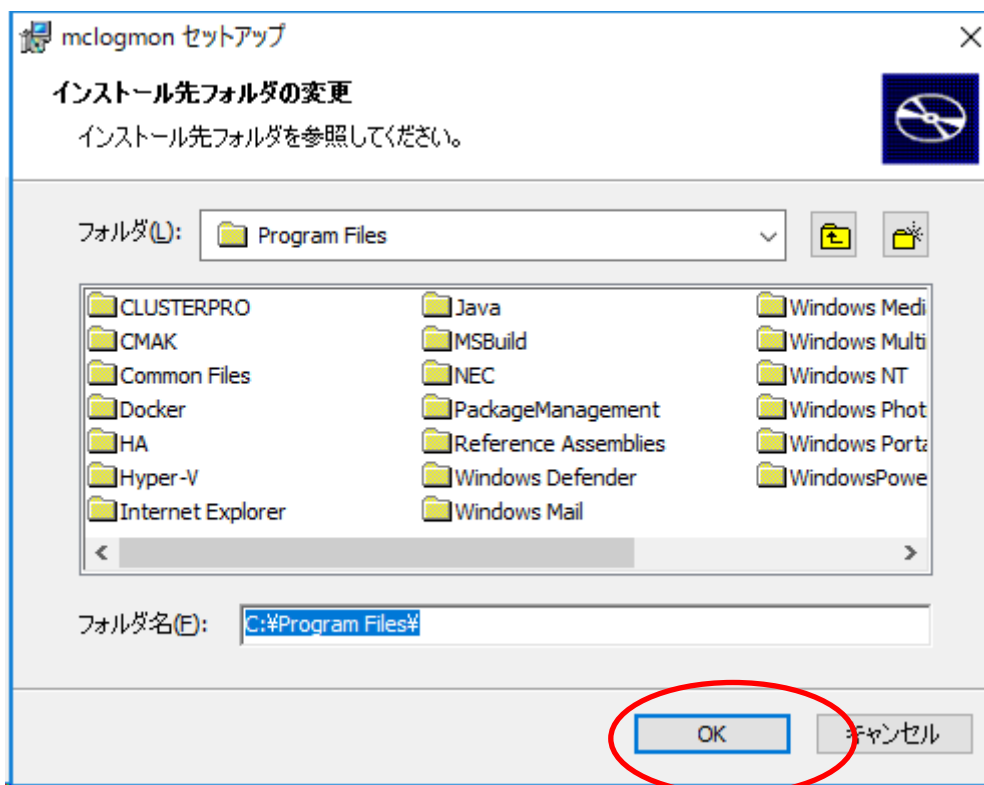
デフォルトのインストール先ドライブは、最も空き容量の大きいドライブです。

通常は、"C:\Program Files" です。

デフォルトのままでもかまわない場合は、次へ(N) を押してください。

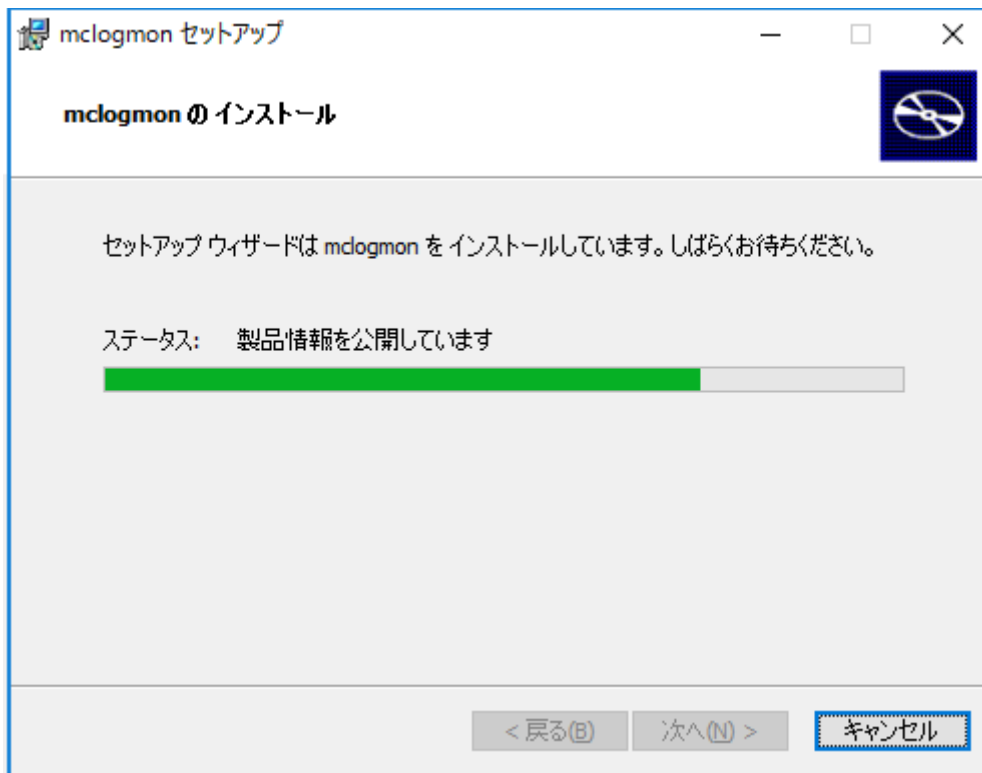
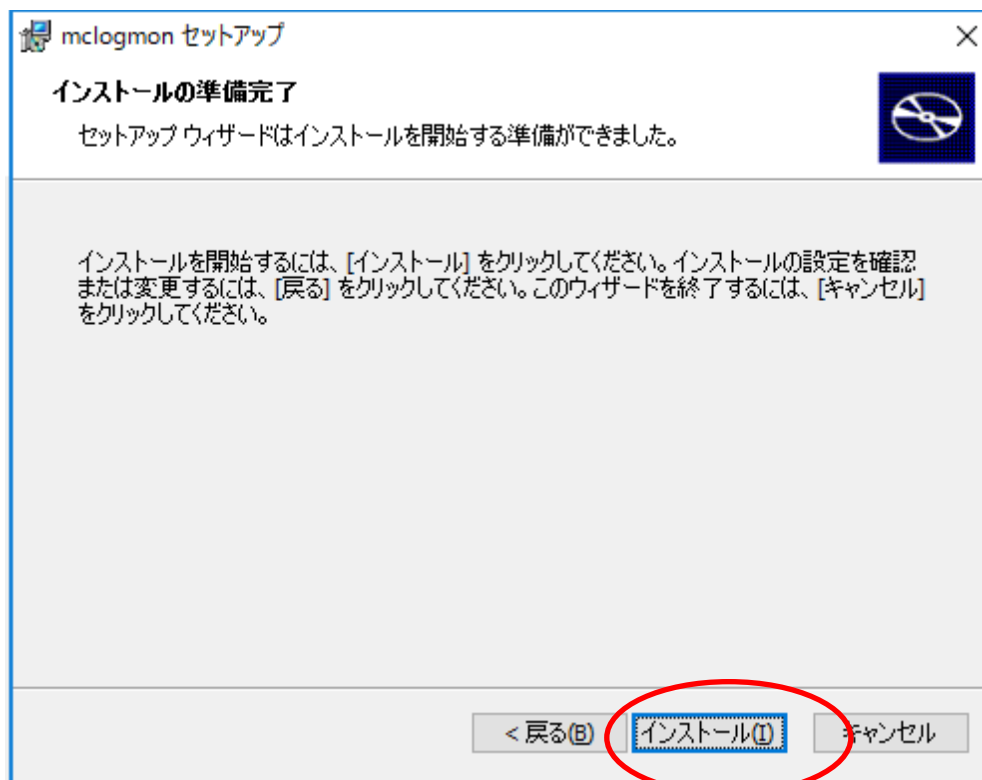


インストール先を変更する場合は、参照(R)を押してください。下記画面が表示されます。
インストールするフォルダーを入力もしくは選択して、OKを押してください。

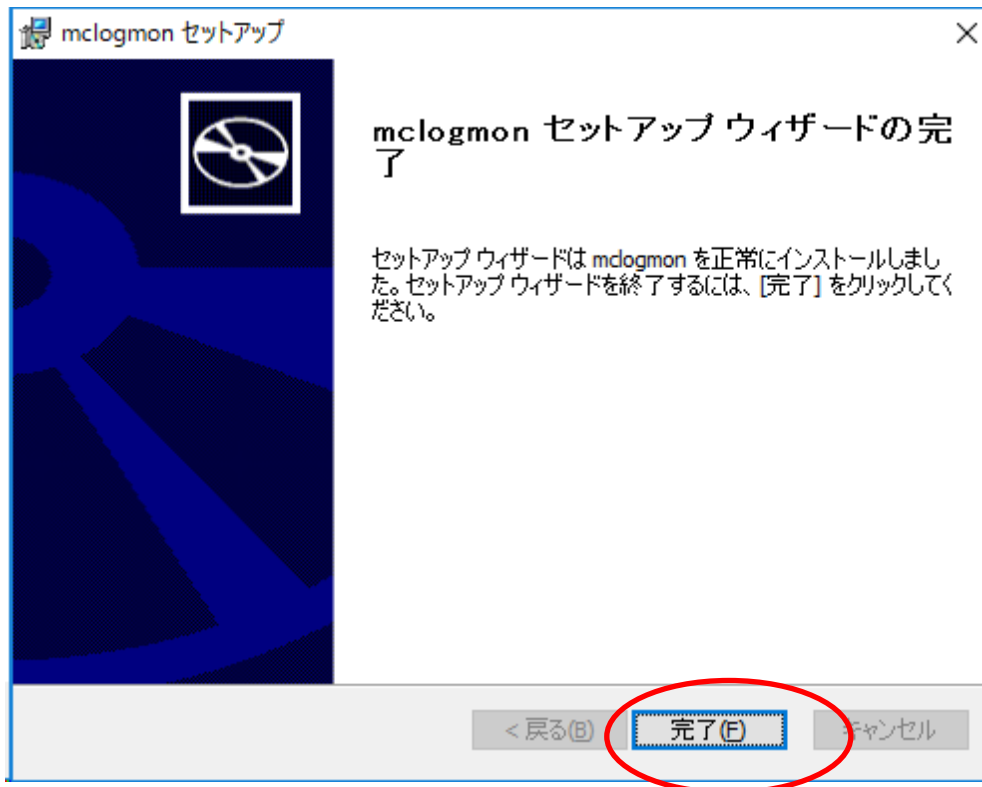


注意 インストール先のフォルダーには、ネットワークドライブ上のフォルダーは指定できません。必ずローカルドライブ上のフォルダーを指定してください。

- (4) インストール(I) を押してインストールを開始してください。



- (5) インストールが完了すれば、下記の画面が表示されます。
完了(F)を押して画面を終了してください。



以上で、本製品のインストールは終了です。

3.1.2 セットアップ

本製品を使用する場合、以下の手順でセットアップを実施します。

- (1) 設定ファイルを編集します。

導入環境、システムにあわせて設定ファイルを編集します。

サンプルファイル(【インストールフォルダー】¥HA¥MCLOG¥conf¥sample¥mclogmond.conf)をコピーして【インストールフォルダー】¥HA¥MCLOG¥conf フォルダに移動し、編集してください。

注意 監視対象 MC 製品を「監視する」設定に変更する必要があります。
SNMP トラップを送信するサーバー情報をシステムに合わせて設定する必要があります。

設定ファイルの詳細については、「3.2.1 設定ファイルの構成」を参照してください。

- (2) 監視メッセージリストを配置します。

監視対象 MC 製品を追加する場合、監視メッセージリストを監視メッセージリスト格納フォルダー(【インストールフォルダー】¥HA¥MCLOG¥masgconf)配下にコピーします。

監視メッセージリストは MC 製品の媒体に格納されています。

【CD-ROM(DVD-ROM ドライブ)】¥Util¥mclogmon¥Windows¥conf¥xxx.lst

補足 xxx には、監視対象 MC 製品名が入ります。
processsaver、rootdiskmonitor、storagesaver のいずれか

- (3) 監視メッセージリストをシステムに応じて編集します。

監視メッセージリストの詳細については、「3.3.1 監視メッセージリストの構成」を参照してください。

- (4) ログ監視デーモンを起動します。

ログ監視デーモンの起動方法については、「4.1.1 起動手順」を参照してください。

- (5) イベントログにログ監視デーモン(mclogmond)のエラーメッセージが出力されていないことを確認します。

- (6) 運用管理コマンドを実行して、設定ファイル、監視メッセージリストの内容が正しいことを確認します。

>【インストールフォルダー】¥HA¥MCLOG¥bin¥mclogmonadmin.exe

運用管理コマンドの詳細については、「4.2 運用管理コマンドの操作手順」を参照してください。

以上で本製品のセットアップは終了です。

3.1.3 アンインストール

本製品を削除する場合、以下の手順でアンインストールを実施します。

注意 アンインストールを開始する前に、McllogMonitor サービスを終了させてください。

(1) McllogMonitor サービスを終了します。

[スタート] メニュー → [コントロール パネル] → [管理ツール] → [サービス] を選択してください。

サービスの一覧が表示されますので、[McllogMonitor] を選択、右クリックし、停止を選択します。

また、コマンドからの停止も可能です。以下のコマンドで停止できます。

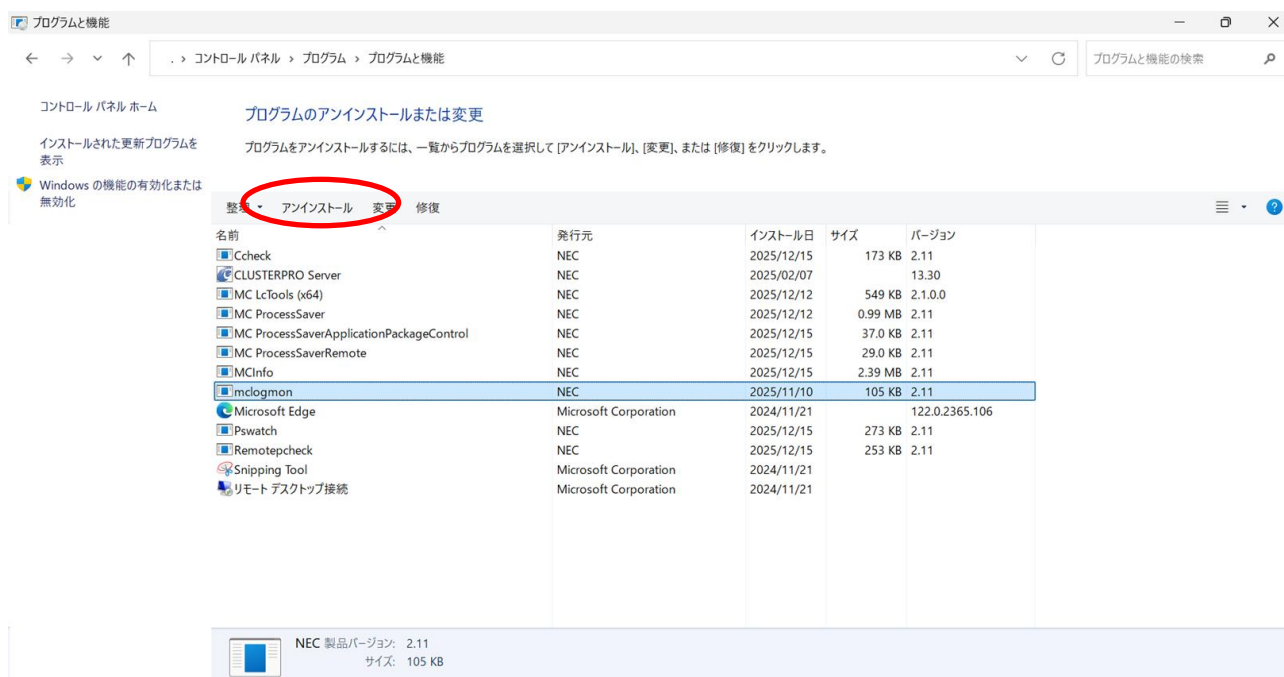
```
>net stop "McllogMonitor"
```

(2) 下記手順により本製品のアンインストールを行います。

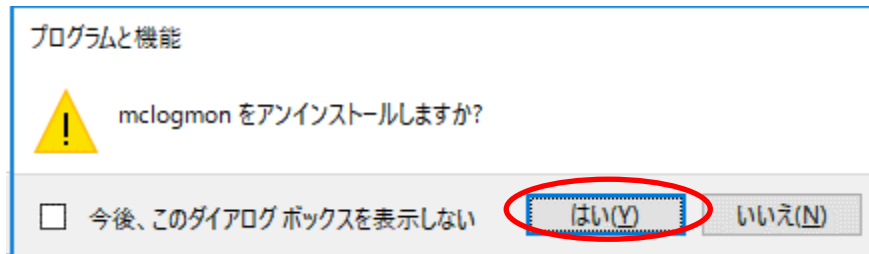
[スタート] メニュー → [コントロール パネル] → [プログラムと機能] を選択してください。

(3) 『プログラムと機能』が表示されますので、

[mcllogmon]を選択し、アンインストール(U) を実行してください。



- (4) アンインストール を実行すると下記画面が表示されます。
はい (Y) を押すと本製品のアンインストールが開始されます。



- (5) インストール時に作成されたフォルダーおよびファイルのみ削除されます。
ログファイルなど運用時に作成されたファイルについては、削除されません。
これらのファイル(インストールフォルダー配下)が不要な場合は、削除してください。

以上で本製品のアンインストールは終了です。

3.1.4 ダウングレードインストール

既にインストールされている MC LogMonitor よりも前のバージョンの MC LogMonitor を
ダウングレードインストールすることはできません。

ダウングレードする場合は、インストールされている MC LogMonitor を一旦アンインストールしてから、
古いバージョンの MC LogMonitor を新規インストールしてください。

なお、MC LogMonitor のアンインストール手順については「3.1.3 アンインストール」、
インストール手順については「3.1.1 インストール」を参照してください。

3.2 設定ファイルについて

3.2.1 設定ファイルの構成

ログ監視デーモンの動作を定義するファイルです。

ファイル名は以下のとおりです。

【インストールフォルダー】¥HA¥MCLOG¥conf¥mclgmond.conf

(1) 設定ファイルの構成について

設定ファイルは、ログ監視デーモン全体の動作を定義する共通部情報(PARAM)と、SNMPトラップを送信するサーバー情報を定義する SNMP 送信先サーバー情報(SnmpServer)で構成されます。

(2) 共通部情報(PARAM)の設定

共通部情報は以下のフォーマットで設定します。

<パラメータ> <設定値>

指定可能なパラメータは以下のとおりです。

パラメータ	説明
MonitorMcps *1	MC ProcessSaver のイベントログ監視 MC ProcessSaver が出力するイベントログメッセージを監視するかどうかを設定します。 指定値は ENABLE(監視する) または、DISABLE(監視しない)です。 デフォルト値は DISABLE(監視しない)です。
MonitorMcrcdm *1	MC RootDiskMonitor のイベントログ監視 MC RootDiskMonitor または MC StorageSaver for BootDisk が出力するイベントログメッセージを監視するかどうかを設定します。 指定値は ENABLE(監視する) または、DISABLE(監視しない)です。 デフォルト値は DISABLE(監視しない)です。
MonitorMcscs *1	MC StorageSaver のイベントログ監視 MC StorageSaver が出力するイベントログメッセージを監視するかどうかを設定します。 指定値は ENABLE(監視する) または、DISABLE(監視しない)です。 デフォルト値は DISABLE(監視しない)です。
HostIpAddress	ホストの IP アドレス 本製品をインストールしたサーバーの IP アドレスを IPv4 形式で設定します。 デフォルト値は 127.0.0.1 です。 ※IPv6 形式の IP アドレスは設定できません。
TraceLogSize	トレースログの上限サイズ(MB) トレースログの上限サイズを設定します。 指定値は 1MB ~ 100MB の範囲です。 デフォルト値は 5MB です
TraceLogGen	トレースログの世代数 トレースログのバックアップ世代数を設定します。 指定値は 1 個 ~ 100 個の範囲です。 デフォルト値は 3 個です。

CommandTimeout	<p>SNMPトラップコマンドのタイムアウト時間(秒)</p> <p>ログ監視デーモンが監視対象のイベントログメッセージを検出して、SNMPトラップコマンドに処理を要求してからタイムアウトするまでの時間を設定します。</p> <p>指定値は0秒～86400秒の範囲です。</p> <p>デフォルト値は60秒です。</p> <p>0秒を指定した場合、コマンドの終了まで待ち合わせを行います。</p> <p>※通常、本パラメータは変更する必要はありません。</p> <p>※SNMPトラップコマンドの送信処理に時間がかかる場合などに、値を変更してください。</p>
----------------	--

*1 … 監視対象 MC 製品を ENABLE(監視する)に変更する必要があります。

定義例：

##### PARAM #####	
MonitorMcps	ENABLE
MonitorMcrcdm	DISABLE
MonitorMcscs	DISABLE
HostIpAddress	10.110.86.100
TraceLogSize	5
TraceLogGen	3
CommandTimeout	60

補足事項

- ・ テキスト形式で、有効行 1 行に 1 項目、パラメータ名と値を指定します。
- ・ パラメータ名のみ指定され、値が指定されていない場合は、デフォルト値で動作します。
- ・ パラメータ名と値のどちらも指定されていない場合は、デフォルト値で動作します。
- ・ コメント行は行の先頭に # (シャープ)を指定します。
- ・ パラメータ名と値の間は、1 文字以上の半角スペースまたはタブを指定します。
- ・ マルチバイト文字を指定することはできません。

(3) SNMP 送信先サーバー情報(SnmpServer)の設定

SNMP 送信先サーバー情報は以下のフォーマットで設定します。

設定可能な SNMP 送信先サーバーは 32 件です。

SnmpServer <ServerName> <PortNum> <SnmpVersion> <SnmpCommunityName>

指定可能なパラメーターは以下のとおりです。

パラメーター	説明
送信先サーバー <ServerName>	SNMPトラップ送信先サーバーの IP アドレスを IPv4 形式で設定します。 デフォルト値は 127.0.0.1 です。 ※IPv6 形式の IP アドレスは設定できません。
SNMP ポート番号 <PortNum>	SNMPトラップ送信先サーバーのポート番号を設定します。 指定可能な範囲は 1~65535 です。 デフォルト値は 162 です。
SNMP バージョン <SnmpVersion>	SNMPトラップ送信先サーバーの SNMP バージョンを設定します。 指定値は v1 または v2c です。 デフォルト値は v2c です。
SNMP コミュニティ名 <SnmpCommunityName>	SNMPトラップ送信先サーバーの SNMP コミュニティ名を設定します。 指定可能な長さの最大は 255 バイトです。 デフォルト値は public です。

定義例：

```
##### SNMP SERVER #####  
# SnmpServer <ServerName> <PortNum> <SnmpVersion> <SnmpCommunityName>  
SnmpServer 10.110.86.110 162 v2c public  
SnmpServer 10.110.86.111 188 v1 com
```

補足事項

- ・ テキスト形式で、各パラメーターを 1 行に指定します。
- ・ SNMP 送信先サーバーに応じて複数行の指定が可能です。
- ・ 指定可能な SNMP 送信先サーバーは最大 32 件です。
- ・ コメント行は行の先頭に # (シャープ)を指定します。
- ・ 各パラメーターの間は 1 文字以上の半角スペースまたはタブを指定します。
- ・ マルチバイト文字を指定することはできません。

3.2.2 設定ファイルの確認、適用手順

設定ファイルを変更した場合、適用および確認は以下の手順で実施します。

- (1) 設定ファイルを変更します。

設定ファイルの変更方法については、「3.2.1 設定ファイルの構成」を参照してください。

- (2) 設定ファイルを適用するためにログ監視デーモンを再起動します。

再起動の詳細については、「4.1 ログ監視デーモンの操作手順」を参照してください。

- (3) イベントログにログ監視デーモン(mclogmond)のエラーメッセージが出力されていないことを確認します。

- (4) 運用管理コマンドを実行して、設定ファイルの変更が反映されていることを確認します。

```
>【インストールフォルダー】¥HA¥MCLOG¥bin¥mclogmonadmin.exe
```

運用管理コマンドの詳細については、「4.2 運用管理コマンドの操作手順」を参照してください。

3.3 監視メッセージリストについて

3.3.1 監視メッセージリストの構成

MC 製品が出力するイベントログメッセージの監視対象メッセージを記載したファイルです。

格納先フォルダー、ファイル名は以下のとおりです。

格納フォルダー	ファイル名	概要
【インストールフォルダー】 ¥HA¥MCLOG¥masgconf	processsaver.lst	MC ProcessSaver のイベントログメッセージを監視する場合に使用します。
	rootdiskmonitor.lst	MC RootDiskMonitor または MC StorageSaver for BootDisk のイベントログメッセージを監視する場合に使用します。
	storagesaver.lst	MC StorageSaver のイベントログメッセージを監視する場合に使用します。

指定可能なパラメーターは以下のとおりです。

注意 ソース名<srcname>は、MC 製品の設定方法、動作環境にあわせて修正が必要な場合があります。
メッセージID<messageid>、レベル<level>、イベントID<eventid>の各パラメーターは、特別な要件がないかぎり変更しないでください。

パラメーター	説明
メッセージ ID <messageid>	SNMP トラップ送信するメッセージの ID を指定します。 指定値は 1~65535 の範囲です。
レベル <level>	SNMP トラップ送信するメッセージのレベルを指定します。 指定値は 3 (ERROR) または、2 (WARNING) または、1 (INFO) です。 デフォルト値は 2 (WARNING) です。
イベント ID <eventid>	監視対象とするイベントログメッセージのイベント ID を指定します。 該当するイベント ID のイベントログメッセージを監視対象とします。 指定値は 1~65535 の範囲です。
ソース名 <srcname>	監視対象とするイベントログメッセージのソース名に一致する文字列を指定します。ソース名は完全一致で検索し、該当するソース名のイベントログメッセージを監視対象とします。 指定可能な長さの最大は 255 バイトです。 ※監視対象 MC 製品の設定方法、動作環境にあわせて修正が必要な場合があります。

定義例：

```
#<messageid> <level> <eventid> <srcname>
1 2 7002 Pcheck
2 2 7003 Pcheck
3 2 7004 Pcheck
101 2 13001 Pswatchd
102 2 13002 Pswatchd
103 2 13003 Pswatchd
201 2 14006 Ccheck
202 2 14007 Ccheck
203 2 14008 Ccheck
301 2 14006 Remotepcheck
302 2 14007 Remotepcheck
303 2 14008 Remotepcheck
```

注意 processsaver.lst (MC ProcessSaver の監視)を使用する場合
MC ProcessSaver は、起動するプロセス名を任意に変更することができます。
pcheck 名を変更して利用している環境の場合、監視メッセージリストのソース名
<srcname>を pcheck 名にあわせて修正する必要があります。
複数のプロセス名の pcheck プロセスを利用している環境の場合は、対象行をコピー
して複数行の指定を行ってください。

補足事項

- ・ テキスト形式で、各パラメーターを 1 行に指定します。
- ・ 監視するイベントログメッセージに応じて複数行の指定が可能です。
- ・ コメント行は行の先頭に # (シャープ)を指定します。
- ・ 監視メッセージに指定可能な有効行は最大 10,000 行です。
- ・ 監視メッセージリスト格納フォルダー(【インストールフォルダー】¥HA¥MCLOG¥masgconf)直下の指定可能なファイル名以外のファイルは読み込みません。
- ・ 各パラメーターの間は、1 文字以上の半角スペースまたはタブを指定します。
- ・ マルチバイト文字を指定することはできません。

3.3.2 監視メッセージリストの確認、適用手順

監視メッセージリストを追加または変更する場合、適用および確認は以下の手順で実施します。

- (1) 監視メッセージリスト格納フォルダー(【インストールフォルダー】¥HA¥MCLOG¥masgconf)に、監視対象 MC 製品の監視メッセージリストが配置されているか確認します。
監視対象 MC 製品の監視メッセージリストがすでに配置されている場合は、(2)~(4)の手順は不要です。
(5)以降の手順を実施してください。
- (2) 対象 MC 製品が含まれる CD-R 媒体を CD/DVD ドライブに挿入してください。
- (3) 監視対象 MC 製品の監視メッセージリストを監視メッセージリスト格納フォルダー(【インストールフォルダー】¥HA¥MCLOG¥masgconf)配下にコピーします。
監視メッセージリストファイルは、各製品の媒体に格納されています。
【CD-ROM(DVD-ROM ドライブ)¥Util¥mcllogmon¥Windows¥conf¥xxx.lst

補足 xxx には、監視対象 MC 製品名が入ります。
processsaver、rootdiskmonitor、storagesaver のいずれか

- (4) 媒体を CD/DVD ドライブから取り出します。
- (5) 監視対象メッセージリストをシステムに応じて変更します。
監視メッセージリストの詳細については、「3.2.1 監視メッセージリストの構成」を参照してください。
- (6) 設定ファイルを変更します。
監視対象 MC 製品の監視設定を ENABLE(監視する)に変更します。
設定ファイルの詳細については、「3.2.1 設定ファイルの構成」を参照してください。
- (7) 設定ファイルを適用するためにログ監視デーモンを再起動します。
再起動の詳細については、「4.1 ログ監視デーモンの操作手順」を参照してください。
- (8) イベントログにログ監視デーモン(mcllogmond)のエラーメッセージが出力されていないことを確認します。
- (9) 運用管理コマンドを実行して、設定ファイル、監視メッセージリストの変更が反映されていることを確認します。

```
>【インストールフォルダー】¥HA¥MCLOG¥bin¥mcllogmonadmin.exe
```

運用管理コマンドの詳細については、「4.2 運用管理コマンドの操作手順」を参照してください。

4 操作・運用手順

4.1 ログ監視デーモンの操作手順

ログ監視デーモンの操作手順について記載します。

注意 コマンドプロンプトはすべて管理者権限で実行する必要があります。

4.1.1 起動手順

ログ監視デーモンを手動で起動する場合、以下の手順で実施します。

(1) ログ監視デーモンを起動します。

[スタート] メニュー → [コントロール パネル] → [管理ツール] → [サービス] を選択してください。

サービスの一覧が表示されますので、[McllogMonitor] を選択、右クリックし、開始を選択します。

また、コマンドからの起動も可能です。以下のコマンドをコマンドプロンプトで実行します。

```
>net start "McllogMonitor"
```

なお、本製品をインストールすると OS の起動時に自動的にログ監視デーモンが起動するように設定されます。

4.1.2 終了手順

ログ監視デーモンを手動で終了する場合、以下の手順で実施します。

(1) ログ監視デーモンを終了します。

[スタート] メニュー → [コントロール パネル] → [管理ツール] → [サービス] を選択してください。

サービスの一覧が表示されますので、[McllogMonitor] を選択、右クリックし、停止を選択します。

また、コマンドからの終了も可能です。以下のコマンドをコマンドプロンプトで実行します。

```
>net stop "McllogMonitor"
```

4.2 運用管理コマンドの操作手順

運用管理コマンドの操作手順について記載します。

注意 コマンドプロンプトはすべて管理者権限で実行する必要があります。

4.2.1 ログ監視デーモンの設定状況表示

- (1) ログ監視デーモンがメモリに保持している設定ファイル、監視メッセージリストの設定状況を表示します。

```
>【インストールフォルダー】¥HA¥MCLOG¥bin¥mclgmonadmin.exe
```

表示例：

```
=====  
Configurations  
=====  
MonitorMcps          ENABLE  
MonitorMcrdm         DISABLE  
MonitorMcsc          DISABLE  
HostIpAddress        10.110.98.11  
TraceLogSize         5  
TraceLogGen          3  
CommandTimeOut       60  
SnmpServer            10.110.98.181 162 v2c public  
  
=====  
Messagelist Name : processsaver.lst  
Module Name       : MC ProcessSaver  
=====  
1 2 7002 Pcheck  
2 2 7003 Pcheck  
3 2 7004 Pcheck  
101 2 13001 Pwatchd  
102 2 13002 Pwatchd  
103 2 13003 Pwatchd  
201 2 14006 Ccheck  
202 2 14007 Ccheck  
203 2 14008 Ccheck
```

設定ファイルのパラメーター詳細については、「3.2.1 設定ファイルの構成」を参照してください。

監視メッセージリストのパラメーター詳細については、「3.3.1 監視メッセージリストの構成」を参照してください。

4.3 出力ファイルについて

4.3.1 トレースログ

本製品が動作時に出力するログ情報を記載したファイルです。

特に出力内容を意識する必要はありません。

以下のタイミングでファイルに追記します。

出力タイミング	出力ファイル名	バックアップファイル名
ログ監視デーモン 動作時	【インストールフォルダー】 ¥HA¥MCLOG¥log¥ mcllogmond.log	【インストールフォルダー】 ¥HA¥MCLOG¥log¥mcllogmond.log.xxx (xxx は 001~100) 上限サイズに達した場合、ローテーションを行いバックアップファイルを作成します。 ※設定ファイルの TraceLogSize パラメーターで上限サイズ、TraceLogGen パラメーターでバックアップファイルの世代数の変更が可能です。
運用管理コマンド 動作時	【インストールフォルダー】 ¥HA¥MCLOG¥log¥ mcllogmonadmin.log	【インストールフォルダー】 ¥HA¥MCLOG¥log¥mcllogmonadmin.log.xxx (xxx は 001~100) 上限サイズに達した場合、ローテーションを行いバックアップファイルを作成します。 ※設定ファイルの TraceLogSize パラメーターで上限サイズ、TraceLogGen パラメーターでバックアップファイルの世代数の変更が可能です。
SNMPトラップコマンド 動作時	【インストールフォルダー】 ¥HA¥MCLOG¥log¥ mctrlog.log	【インストールフォルダー】 ¥HA¥MCLOG¥log¥mctrlog.log.xxx (xxx は 001~003) 上限サイズに達した場合、ローテーションを行いバックアップファイルを作成します。 ※上限サイズは 5MB、バックアップファイルの世代数は 3 個です。変更することはできません。

5 メッセージ

5.1 SNMPトラップメッセージ

本製品が SNMP トラップ送信するメッセージを記述します。

メッセージは、「イベントログ出力されたソース名+イベントログ出力されたメッセージ」の形式で送信されます。

補足 イベントログに出力されたメッセージおよび対処の詳細については、各 MC 製品
 マニュアルのイベントログメッセージの章を参照してください。
 送信されるトラップは、CLUSTERPRO MC MIB 定義ファイル
 「NEC-CLUSTER-MC-EVENT-MIB.mib」で定義されています。
 MIB オブジェクトの詳細については、MIB 定義ファイル適用手順書
 「readme_NEC-CLUSTER-MC-EVENT-MIB.txt」を参照してください。

モジュールタイプ	メッセージ ID	メッセージ	説明	対処
CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.11 for Windows				
mcps	1	%1 (%2) RETRY_OVER:CONTINUE	%1 で監視している対象プロセス%2 の復旧失敗を検出しました。 (他のプロセス監視は継続)	対象プロセスの消滅および再起動に失敗した原因の究明を行うようシステム管理者に依頼してください。
mcps	2	%1 (%2) RETRY_OVER:EXIT	%1 で監視している対象プロセス%2 の復旧失敗を検出しました。 (他のプロセス監視を継続せず終了)	対象プロセスの消滅および再起動に失敗した原因の究明を行うようシステム管理者に依頼してください。
mcps	3	%1 (%2) RETRY_OVER:SHUTDOWN	%1 で監視している対象プロセス%2 の復旧失敗を検出しました。 (他のプロセス監視を継続せず終了)	対象プロセスの消滅および再起動に失敗した原因の究明を行うようシステム管理者に依頼してください。
mcps	4	監視対象プロセス(%1, pid=%2)のストールを検出しました。	%1 のストール監視で対象プロセス(pid=%2)のストールを検出しました。	対象プロセスのストールが発生した原因の究明を行うようシステム管理者に依頼してください。
mcps	101	Pswatchd Service [%1, pid=%2] Down	対象サービス%1、PID%2 の消滅を検出しました。	対象サービスが消滅した原因の究明を行うようシステム管理者に依頼してください。
mcps	102	Pswatchd Process [%1, pid=%2] Down	対象プロセス%1、PID%2 の消滅を検出しました。	対象プロセスが消滅した原因の究明を行うようシステム管理者に依頼してください。
mcps	103	Pswatchd Set pid fail (%1)	対象プロセス%1 の起動失敗を検出しました。	対象プロセスの起動に失敗した原因の究明を行うようシステム管理者に依頼してください。
mcps	201	%1 (%2) RETRY_OVER:CONTINUE	%1 で監視している対象コンテナ%2 の復旧失敗を検	対象コンテナの消滅および再起動に失敗した原因の究明を

			出しました。 (他のプロセス監視は継続)	行うようシステム管理者に依頼してください。
mcps	202	%1 (%2) RETRY_OVER:EXIT	%1 で監視している対象コンテナ%2 の復旧失敗を検出しました。 (他のプロセス監視を継続せず終了)	対象コンテナの消滅および再起動に失敗した原因の究明を行うようシステム管理者に依頼してください。
mcps	203	%1 (%2) RETRY_OVER:SHUTDOWN	%1 で監視している対象コンテナ%2 の復旧失敗を検出しました。 (他のプロセス監視を継続せず終了)	対象コンテナの消滅および再起動に失敗した原因の究明を行うようシステム管理者に依頼してください。
mcps	301	Remotepcheck [%1] RETRYOVER:CONTINUE.(RemoteServer = %2)	[プロセス] リモートサーバー%2 の対象プロセス%1 の復旧失敗検出(他のプロセス監視は継続)	リモートサーバーの対象プロセスの消滅および再起動に失敗した原因の究明を行うようシステム管理者に依頼してください。
mcps	302	Remotepcheck [%1] RETRYOVER:EXIT.(RemoteServer = %2)	[プロセス] リモートサーバー%2 の対象プロセス%1 の復旧失敗検出(他のプロセス監視を継続せず終了)	リモートサーバーの対象プロセスの消滅および再起動に失敗した原因の究明を行うようシステム管理者に依頼してください。
mcps	303	Remotepcheck [%1] RETRYOVER:SHUTDOWN.(RemoteServer = %2)	[プロセス] リモートサーバー%2 の対象プロセス%1 の復旧失敗検出(他のプロセス監視を継続せず終了)	リモートサーバーの対象プロセスの消滅および再起動に失敗した原因の究明を行うようシステム管理者に依頼してください。

モジュールタイプ	メッセージID	メッセージ	説明	対処
CLUSTERPRO MC RootDiskMonitor 2.11 for Windows CLUSTERPRO MC StorageSaver for BootDisk 2.11 for Windows				
mcrdm	1	パスが Down になりました。(パス = %1)	パスの異常を検出しました。	I/O パス異常を検出したので、早急に該当ディスクの点検を行ってください。 シングル構成の場合は、その後ドライブレータもdownになります。ミラー構成の場合は、ドライブレータが suspend になります。
mcrdm	2	自動閉塞が完了しました。(パス = %1)	パスが閉塞されました。	ディスク装置の点検を行ってください。 閉塞した I/O パスは RootDiskMonitor の構成復旧コマンドで復旧を行ってください。

mcrdm	101	Slot %1 LD%2 [%3] status is Failed.	論理ディスクの冗長性消失を検出しました。	ディスクが故障している可能性があります。故障しているディスクがないかどうかハードウェア部門に確認を行ってください。
mcrdm	102	Slot %1 LD%2 [%3] status is Interim Recovery Mode.	論理ディスクの冗長性低下を検出しました。	ディスクが故障している可能性があります。故障しているディスクがないかどうかハードウェア部門に確認を行ってください。
mcrdm	103	Slot %1 PD%2 status is Failed.	物理ディスクの故障を検出しました。	ディスクが故障している可能性があります。故障しているディスクがないかどうかハードウェア部門に確認を行ってください。
mcrdm	104	Slot %1 LD%2 [%3] status is Offline.	論理ディスクの冗長性消失を検出しました。	ディスクが故障している可能性があります。故障しているディスクがないかどうかハードウェア部門に確認を行ってください。
mcrdm	105	Slot %1 LD%2 [%3] status is Degraded.	論理ディスクの冗長性低下を検出しました。	ディスクが故障している可能性があります。故障しているディスクがないかどうかハードウェア部門に確認を行ってください。

モジュールタイプ	メッセージID	メッセージ	説明	対処
CLUSTERPRO MC StorageSaver 2.11 for Windows				
mcss	1	ドライブレターがDownになりました。(ドライブレター = %1)	ドライブレター(%1)の異常を検出しました。	ドライブレターを構成するすべてのI/Oパスが障害となっています。早急にディスクの点検を行ってください。
mcss	2	I/O リクエストが時間内に完了しませんでした。(%1)	I/O ストールのタイムアウトを検出しました。	ディスクが故障している可能性がありますので、早急に該当ディスクの点検を行ってください。
mcss	3	パスを閉塞します。(パス = %1)	閉塞コマンド(Srgreduce)を投入しました。	ディスク装置の点検を行ってください。閉塞したI/OパスはStorageSaverの構成復旧コマンドで復旧させてください。
mcss	4	パスがDownになりました。(パス = %1)	パス(%1)の異常を検出しました。	I/Oパス異常を検出したので、早急に該当ディスクの点検を行ってください。
mcss	5	Asm ディスクグループがDownになりました。(Asm ディスクグループ = %1)	ASMディスクグループ(%1)の異常を検出しました。	ASMディスクを構成するすべてのI/Oパスが障害となっています。早急にディスクの点検を行ってください。

mcss	6	パスが Down になりました。 (datastore = %1 : runtime = %2 : uid = %3)	物理パスの異常を検出しました。	物理パス異常を検出したので、早急に該当パスおよびディスクの点検を行ってください。
mcss	7	NAS が Down になりました。(プロトコル=%1,サーバー=%2,共有名=%3)	NAS リソースの異常を検出しました。	NAS リソースの異常を検出しました。早急に該当リソースの点検を行ってください。
mcss	8	Srgd Monitor Status is reported, Online status is reduced.	物理パスの監視停止状態を検出しました。	物理パスが閉塞状態で、復旧していない可能性があります。早急に該当物理パスの点検を行ってください。障害状態からの復旧後は、srgrecover を実行して物理パスの管理状態を復旧させてください。
mcss	9	Srgd Monitor Status is reported, L-stat is down.	物理パスの異常を検出しました。	物理パスの異常を検出後、復旧していない可能性があります。早急に該当物理パスの点検を行ってください。障害状態からの復旧後は、srgrecover を実行して物理パスの管理状態を復旧させてください。
mcss	101	Srgtkd Intermittent fault on %1 level detected. [path = %2]	%1 レベルの間欠障害をパス(%2)で検出しました。	ディスク装置の点検を行ってください。
mcss	102	Srgtkd Reduce execute (status=%1). [hwpath = %2]	閉塞コマンド(Srgreduce)を投入しました。	ディスク装置の点検を行ってください。閉塞した I/O パスは StorageSaver の構成復旧コマンドで復旧させてください。
mcss	201	デバイスが Down になりました。 (Host = %1 : Device = %2)	ストレージデバイスの異常を検出しました。	ストレージデバイスの異常を検出したので、早急に該当するストレージデバイスの点検を行ってください。
mcss	202	パスが Down になりました。 (Host = %1 : Runtime = %2 : Uid = %3)	物理パスの異常を検出しました。	物理パスの異常を検出したので、早急に該当パスの点検を行ってください。
mcss	203	SSVCd Monitor Status is reported, Online-status is reduced.(Host = %1)	物理パスの閉塞状態を検出しました。	物理パスの異常を検出して閉塞した後、復旧していない可能性があります。該当する ESXi ホストの物理パスの状態を確認してください。
mcss	204	SSVCd Monitor Status is reported, L-status is down.(Host = %1)	物理パスの異常を検出しました。	物理パスの異常を検出した後、復旧していない可能性があります。該当する ESXi ホストの物理パスの状態を確認してください。
mcss	205	障害の予兆が検出されました。 (host=%1 : runtime=%2 : uid=%3 : error=%4) ...	障害予兆を検出しました。 (情報出力)	点検を行ってください。

mcss	301	障害の予兆が検出されました。 (host=%1 : runtime=%2 : uid=%3 : error=%4)	Path の障害予兆を検出しました。	該当 Path の点検を行ってください。
mcss	302	障害の予兆が検出されました。 (host=%1 : hba=%2 : adapterid=%3 : error=%4)	HBA の障害予兆を検出しました。	該当 HBA の点検を行ってください。
mcss	303	障害の予兆が検出されました。 (host=%1 : runtime=%2 : uid=%3 : error=%4) ...	障害予兆を検出しました。 (情報出力)	点検を行ってください。

5.2 イベントログメッセージ

本製品の導入時、または運用時に出力されるメッセージを記述します。

イベントログファイルおよびイベントログの種類は以下のとおりです。

イベントログファイル名	【SystemRoot】¥System32¥Winevt¥Logs¥Application.evtx
種類	情報、エラー

5.2.1 ログ監視デーモンが出力するイベントログメッセージ

●LOG_ERR のイベントログメッセージ

mclgmond.conf read error.

イベント ID : 1038

説明 : 設定ファイルの読み込みに失敗しました。

処置 : 設定ファイルが存在するか確認してください。

存在しない場合は、設定ファイルを再作成してログ監視デーモンを再起動してください。

MessageList read error.

イベント ID : 1038

説明 : 監視メッセージリストの読み込みに失敗しました。

処置 : 監視対象 MC 製品の監視メッセージリストが正しく配置されていること、ファイル名が正しいことを確認してください。

不正な場合は監視メッセージリストを配置して、ログ監視デーモンを再起動してください。

上記の処置を行っても異常が改善されない場合は、システムの再起動を行ってください。

システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取しサポートセンターに連絡してください。

VirtualObjectInitByService error.

イベント ID : 1039

説明 : ログ監視デーモンの生成に失敗しました。

処置 : ログ監視デーモンを再起動してください。

上記の処置を行っても異常が改善されない場合は、システムの再起動を行ってください。

システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取しサポートセンターに連絡してください。

Failed to initialize COM library.

イベント ID : 1040

説明 : イベントログ監視の初期化に失敗しました。

処置 : ログ監視デーモンを再起動してください。

上記の処置を行っても異常が改善されない場合は、システムの再起動を行ってください。

システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取しサポートセンターに連絡してください。

Failed to connect to WMI Service.

イベントID: 1041

説明: イベントログへの接続に失敗しました。

処置: ログ監視デーモンを再起動してください。

上記の処置を行っても異常が改善されない場合は、システムの再起動を行ってください。

システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取しサポートセンターに連絡してください。

EventLog check error.

イベントID: 1042

説明: イベントログ監視に失敗しました。

処置: ログ監視デーモンを再起動してください。

上記の処置を行っても異常が改善されない場合は、システムの再起動を行ってください。

システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取しサポートセンターに連絡してください。

●LOG_WARNING のイベントログメッセージ

mclogmond – daemon abnormal exit.

イベントID: 1043

説明: ログ監視デーモンが異常終了しました。

処置: システムの再起動を行ってください。

システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、サポートセンターに連絡してください。

mclogmond.conf:Parameter xxx is out of range. Set default.

xxx = パラメーター名

イベントID: 1003

説明: 設定ファイルの指定パラメーター(xxx)が指定範囲外のため、デフォルト値が設定されました。

処置: 設定ファイルのパラメーター(xxx)に正しい値を設定して、ログ監視デーモンを再起動してください。

mclogmond.conf:Parameter xxx (yyy) is out of range. Set default.

xxx = パラメーター名

yyy = 項目名

イベントID: 1003

説明: 設定ファイルの指定パラメーター(xxx)の項目名(yyy)が指定範囲外のため、デフォルト値が設定されました。

処置: 設定ファイルのパラメーター(xxx)の項目名(yyy)に正しい値を設定して、ログ監視デーモンを再起動してください。

mclogmond.conf:Parameter xxx is invalid. Set default.

xxx = パラメーター名

イベント ID: 1004

説明: 設定ファイルの指定パラメーター(xxx)が指定範囲外のため、デフォルト値が設定されました。

処置: 設定ファイルのパラメーター(xxx)に正しい値を設定して、ログ監視デーモンを再起動してください。

mclogmond.conf:Parameter xxx (yyy) is invalid. Set default.

xxx = パラメーター名

yyy = 項目名

イベント ID: 1004

説明: 設定ファイルの指定パラメーター(xxx)の項目名(yyy)が指定範囲外のため、デフォルト値が設定されました。

処置: 設定ファイルのパラメーター(xxx)の項目名(yyy)に正しい値を設定して、ログ監視デーモンを再起動してください。

mclogmond.conf:Parameter xxx is unknown.

xxx = パラメーター名

イベント ID: 1006

説明: 設定ファイルに指定したパラメーター(xxx)が正しくありませんでした。

処置: 設定ファイルのパラメーター(xxx)を修正して、ログ監視デーモンを再起動してください。

mclogmond.conf:Monitor product must be specified.

イベント ID: 1009

説明: 監視対象 MC 製品が設定されていませんでした。

処置: 監視対象 MC 製品は必ず1つ以上の設定が必要です。

設定ファイルの監視対象 MC 製品の指定パラメーター(MonitorMcXX)を ENABLE に修正して、ログ監視デーモンを再起動してください。

There is no Messagelist file.

イベント ID: 1014

説明: 監視メッセージリストが存在しませんでした。

処置: 監視対象 MC 製品の監視メッセージリストを、監視メッセージリスト格納フォルダーに移動して、ログ監視デーモンを再起動してください。

MessageList parameter error. (file=xxx, line=yyy)

xxx = ファイル名

yyy = エラー行数

イベント ID: 1016

説明: 監視メッセージリスト(xxx)の記載フォーマットが正しくありませんでした。

処置: 監視メッセージリスト(xxx)の(yyy)行を修正して、ログ監視デーモンを再起動してください。

There is no Messagelist record. (file=xxx)

xxx = ファイル名

イベントID: 1018

説明: 監視メッセージリスト(xxx)に有効行が存在しませんでした。

処置: 監視メッセージリストには必ず有効行が必要です。

監視メッセージリスト(xxx)に有効行を 1 行以上指定して、ログ監視デーモンを再起動してください。

mctrap command execution error. (ret=xxx)

xxx = トラップコマンド実行結果

イベントID: 1032

説明: SNMPトラップコマンドの実行に失敗しました。

処置: サポートセンターに連絡してください。

5.2.2 運用管理コマンドが出力するイベントログメッセージ

メッセージはありません。

5.2.3 SNMPトラップコマンドが出力するイベントログメッセージ

メッセージはありません。

5.3 コンソールメッセージ

本製品の導入時、または運用時に出力されるメッセージを記述します。

5.3.1 ログ監視デーモンが出力するコンソールメッセージ

●標準出力のメッセージ

メッセージはありません。

5.3.2 運用管理コマンドが出力するコンソールメッセージ

●標準出力のメッセージ

`mclog_get_installpath failed.`

説明： インストールパスの取得に失敗しました。

処置： 運用管理コマンドを再実行してください。

上記の処置を行っても異常が改善されない場合は、システムの再起動を行ってください。

システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取しサポートセンターに連絡してください。

`Cannot initialize log.`

説明： ログの初期化に失敗しました。

処置： 運用管理コマンドを再実行してください。

上記の処置を行っても異常が改善されない場合は、システムの再起動を行ってください。

システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取しサポートセンターに連絡してください。

`mclogmond.conf read error.`

説明： 設定ファイルの読み込みに失敗しました。

処置： 設定ファイルが存在するか確認してください。

存在しない場合は、設定ファイルを再作成して再度コマンドを実行してください。

設定ファイルが存在する場合は、設定ファイルの記載フォーマット、パラメーターが正しいか確認して再度コマンドを実行してください。

`mclogmond is not running.`

説明： ログ監視デーモンが起動していませんでした。

処置： ログ監視デーモンを起動してから、再度コマンドを実行してください。

`Command failed.`

説明： コマンドの実行に失敗しました。

処置： あわせて他のメッセージが出力されている場合は、その処置を実施して再度コマンドを実行してください。

他のメッセージが出力されていない場合は、再度コマンドを実行してください。

再度コマンドを実行しても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取しサポートセンターに連絡してください。

mcdlogmond.conf:Parameter xxx is out of range. Set default.

xxx = パラメーター名

説明： 設定ファイルの指定パラメーター(xxx)が指定範囲外のため、デフォルト値が設定されました。

処置： 設定ファイルのパラメーター(xxx)に正しい値を設定して、再度コマンドを実行してください。

mcdlogmond.conf:Parameter xxx is invalid. Set default.

xxx = パラメーター名

説明： 設定ファイルの指定パラメーター(xxx)が指定範囲外のため、デフォルト値が設定されました。

処置： 設定ファイルのパラメーター(xxx)に正しい値を設定して、再度コマンドを実行してください。

5.3.3 SNMPトラップコマンドが出力するコンソールメッセージ

メッセージはありません。

6 注意・制限事項

6.1 注意事項

本製品を利用する際の注意事項について説明します。

- ・ 本製品を利用する場合、以下いずれかの MC 製品のインストールおよび設定が必要です。
 - CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.11 for Windows
 - CLUSTERPRO MC RootDiskMonitor 2.11 for Windows
 - CLUSTERPRO MC StorageSaver 2.11 for Windows
 - CLUSTERPRO MC StorageSaver for BootDisk 2.11 for Windows
- ・ 本製品は MC 製品が出力するイベントログメッセージを利用して、SNMPトラップを送信する仕様となっているため、障害発生時に何らかの要因によりイベントログメッセージが出力されない場合は、SNMP トラップを送信できない可能性があります。
- ・ SNMPトラップ受信時に使用する MIB 定義ファイルは、CLUSTERPRO MC 製品共通です。
MC 製品の媒体に含まれている CLUSTERPRO MC MIB 定義ファイル (NEC-CLUSTER-MC-EVENT-MIB.mib) を使用してください。
- ・ SNMP マネージャーに CLUSTERPRO MC の MIB 定義ファイルを組み込む方法については、各 SNMP マネージャーのマニュアルを参照してください。
- ・ SNMP マネージャーから SNMP を使用して情報を取得する機能は提供しておりません。
- ・ 運用管理コマンドは、管理者権限のコマンドプロンプトで実行する必要があります。
- ・ 監視対象 MC 製品が設定されていない場合、ログ監視デーモンは起動できません。
- ・ 監視メッセージリストのソース名パラメーターは、MC 製品の設定方法、動作環境にあわせて修正が必要な場合があります。
詳細については、「3.3.1 監視メッセージリストの構成」を参照してください。
- ・ 監視メッセージリストのメッセージ ID、レベル、イベント ID、ソース名の各パラメーターは、特別な要件がないかぎり変更しないでください。
- ・ 既にインストールされている MC LogMonitor よりも前のバージョンの MC LogMonitor をダウングレードインストールすることはできません。ダウングレードする場合は、インストールされている MC LogMonitor を一旦アンインストールしてから、古いバージョンの MC LogMonitor を新規インストールしてください。

6.2 制限事項

本製品を利用する際の制限事項について説明します。

- ・ 特にありません。

7 リファレンス

7.1 mclogmonadmin

名称

mclogmonadmin 運用管理コマンド

構文

mclogmonadmin [-h]

機能説明

ログ監視デーモンの設定状況の表示を行います。

引数指定なし

設定状況の表示を行います。

-h

Usage の表示を行います。

表示される設定状況の詳細については、「4.2.1 ログ監視デーモンの設定状況表示」を参照してください。

返却値

正常終了 0

異常終了 1

異常終了時のメッセージについては、「5.3.2 運用管理コマンドが出力するコンソールメッセージ」を参照してください。

CLUSTERPRO MC LogMonitor 2.11 for Windows
ユーザーズガイド
(SNMPトラップ送信機能)

2026年4月第10版
日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目7番地1号
TEL (03) 3454-1111(代表)

© NEC Corporation 2026

日本電気株式会社の許可なく複製、改変などを行うことはできません。
本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

保護用紙